

○ 建設中の新東名高速道路の区間における2027年度までの実験実施に先立ち、既存の技術・施設における実験を通じ、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行うため、6つのユースケースに沿って実証実験を実施。(9/19に9グループ12ケース採択)

実験場所：国土技術政策総合研究所の試験走路(申請者より提案のあった場所での実施も可)

実験期間(国総研)：12月1日(月)～2月27日(金)

※大成建設は自社施設で走行中給電の実験も予定

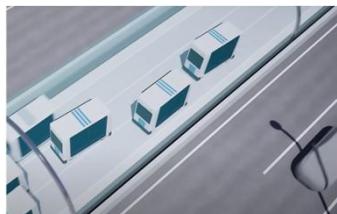
ユースケース① 野村不動産、豊田自動織機
拠点：無人荷役機器による荷役作業の効率化

無人荷役機器によるトラックからの荷積み・荷卸し、搬送機器への積み替え作業の自動化に必要な床面積、作業時間などについて検証



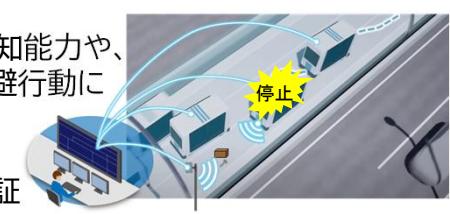
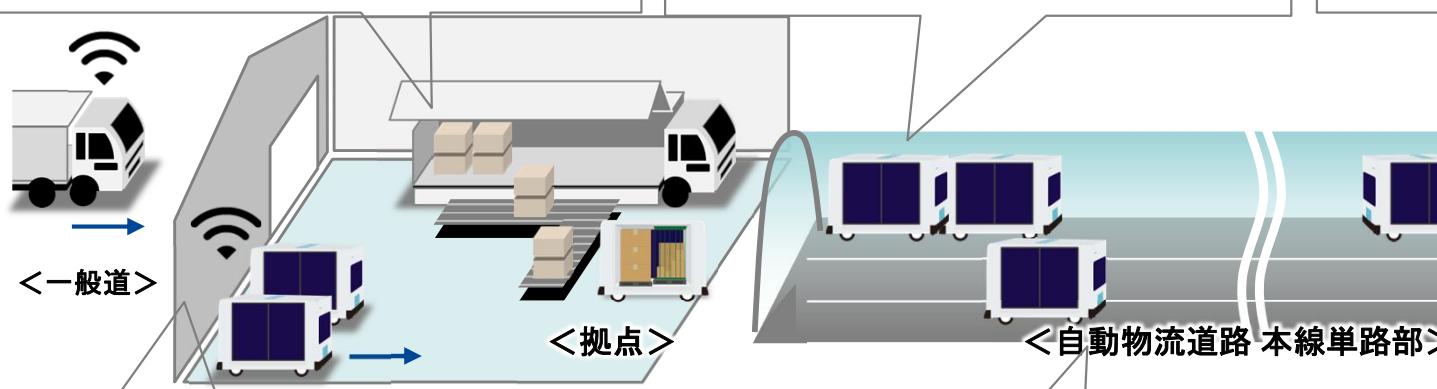
ユースケース② 大林組、大成建設、成田国際空港・千葉県、
本線単路部：搬送機器の自動走行 Cuebus

速度や荷物重量の異なる搬送機器の自動走行の状況、必要な道路幅、走行環境、荷物への影響などを検証



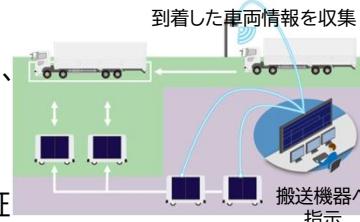
ユースケース③ 鹿島建設
本線単路部：異常検知及び搬送機器の回避行動

異常発生時の検知能力や、それに対する回避行動における走行技術および制御の精度について検証

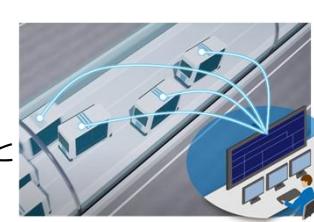
ユースケース⑥ 野村不動産
拠点：搬入車両の到着予定情報の情報提供

搬入車両の到着予定情報をシステムで受信し、搬送機器へ指示。車両の到着に合わせて搬送機器をスタンバイさせる運用について検証



ユースケース⑤ 前田建設工業
その他：搬送機器の運行管理

搬送機器や荷物の運行状況を管理するためのシステムについて、その有効性と課題を検証



ユースケース④ NTTドコモビジネス、大成建設、成田国際空港・千葉県
本線単路部：搬送機器の通信安定性

トンネルなど通信環境が不安定な状況下においても、自動走行が可能かどうかを検証



実証実験スケジュール

2026年2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
			大林組 (ユースケース2)			
			NTTドコモビジネス (ユースケース4)			
8	9	10	11	12	13	14
				↔ Cuebus (ユースケース2)		
15	16	17	18	19	20	21
	↔ Cuebus(ユースケース2)					
	↔ 成田国際空港、千葉県(ユースケース2, 4)					
22	23	24	25	26	27	28
			↔ 鹿島建設 (ユースケース3)			

※実験実施日のみ標記(準備日・撤去日は除く)

※代表企業名のみ記載

※赤字・赤矢印線は国総研、青字・青矢印線は自社施設等で実験を実施予定

採択事業者一覧

参加グループ	ユースケース
野村不動産株式会社、株式会社 IHI、株式会社 IHI 物流産業システム、ナカオ工業株式会社、 フジトランスポーティ株式会社、 株式会社 NX 総合研究所	ユースケース 1、6
株式会社豊田自動織機	ユースケース 1
株式会社大林組、PLiBOT 株式会社、 日本マイブルロボットテクノロジー株式会社、 NTT ドコモビジネス株式会社	ユースケース 2
大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、 大成ロテック株式会社	ユースケース 2、4
成田国際空港株式会社、千葉県、PLiBOT 株式会社	ユースケース 2、4
Cuebus 株式会社	ユースケース 2
鹿島建設株式会社	ユースケース 3
NTT ドコモビジネス株式会社、株式会社大林組、 PLiBOT 株式会社、日本マイブルロボット テクノロジー株式会社、セーフィー株式会社	ユースケース 4
前田建設工業株式会社、株式会社 TBM システムズ、 ワム・システム・デザイン株式会社	ユースケース 5